【西原町】
１人１台端末の利活用に係る整備計画

１．１人１台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

１人１台端末とクラウドツールの利用により、データ利活用による個別最適な学びと協働的な学びを充実するとともに教師の負担を軽減するよう取り組みます。各学校長のリーダーシップの下で教育 DX を推進し、学習履歴、健康診断情報等のデータ利活用により、特別支援教育に対しても同様に支援を行い、全ての子ども達が適切な教育を受けられる環境を整備します。一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログかといった「二項対立」に陥らないことに留意しつつ、教育 DX を推進します。

2. GIGA 第 1 期の総括

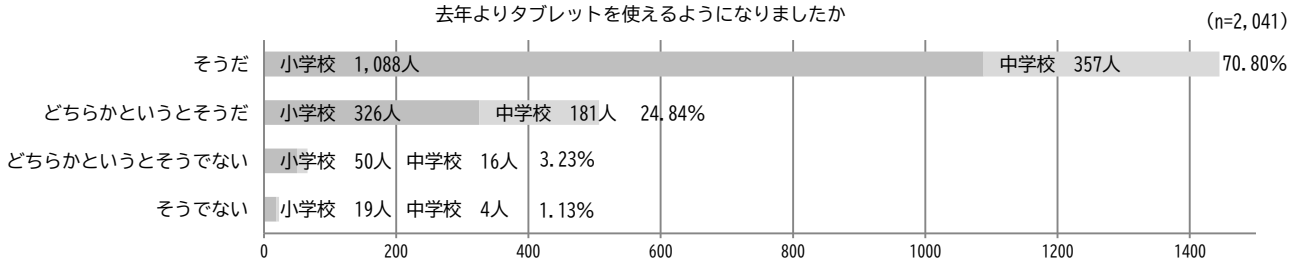
令和２年度に 3,450 台、令和４年度に 50 台、合計 3,500 台の１人１台端末を整備しました。また、令和２年度に町立小中学校の通信ネットワーク環境の整備を行い、クラウドツールやデジタルドリル等の教材の円滑な活用が可能となりました。

学校現場では教科や学習場面に応じて、情報の収集・発信・共有のツールとして１人１台端末を日常的に活用しています。

また、令和３年度から町立小中学校の全学年において、１人１台端末の持ち帰りを実施し、家庭学習においても端末を活用しています。

これらの取り組みの結果、本町が令和５年度に児童生徒を対象に実施したアンケート調査では、「去年よりタブレットを使えるようになりましたか」の設問で概ね肯定的な「そうだ」、「どちらかというとそうだ」と回答した児童生徒の割合が 95. 6%を示すなど、ICT が児童生徒にも学びの道具として定着しつつあります。

【令和５年度実施児童生徒を対象に実施したアンケート】



出典：ICT 支援員配置及び電子黒板整備に関するアンケート調査（令和６年２月実施）をもとに作成

３．１人１台端末の利活用方策

端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの１人１台端末の環境を引き続き維持します。

（１） １人１台端末の日常的な利活用

校内研修の積極的な実施と活用により、ICT 研修を受講する教員の数を増やし、引き続き１人１台端末を学びの道具として毎日使う環境の構築を目指します。

また、授業において児童生徒が自ら調べ、考えをまとめて発表する場面を設定することや教職員と児童生徒、児童生徒同士がチャット等でやり取りできる環境、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組める環境を整備します。

（２） １人１台端末を活用した学びを保障

１人１台端末を活用した学びの保障については、端末を活用した教育相談や不登校児への支援、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に取り組みます。

併せて、特別支援教育においては、障害のある児童生徒や合理的配慮を要する児童生徒の支援に取り組みます。